

手話だより

令和3年度 6月号

令和3年度が始まり、運動会シーズンになりました。まだまだ厳しい状況が続く世の中ですが、それでも皆さんで楽しく手話を使って交流できればと思います。この「手話だより」では、手話や聴覚障害などに関する情報を発信します。皆さんが「へえ～！」「面白い！」と思ってくれるようにしていきたいです。今年度もよろしくお願いいたします。

手話・情報保障部一同

「どうする！？ こんな時」聴覚障害者の悩み

コロナ禍でマスクをつけることが当たり前になってきましたが、手話に加え、相手の口の動きや表情を見て内容を読み取る聴覚障害者にとっては困る問題です。「マスクで口の動きが見えない」「表情が読めない」「声が聞き取りにくい」…などコミュニケーションがしづらくなりました。

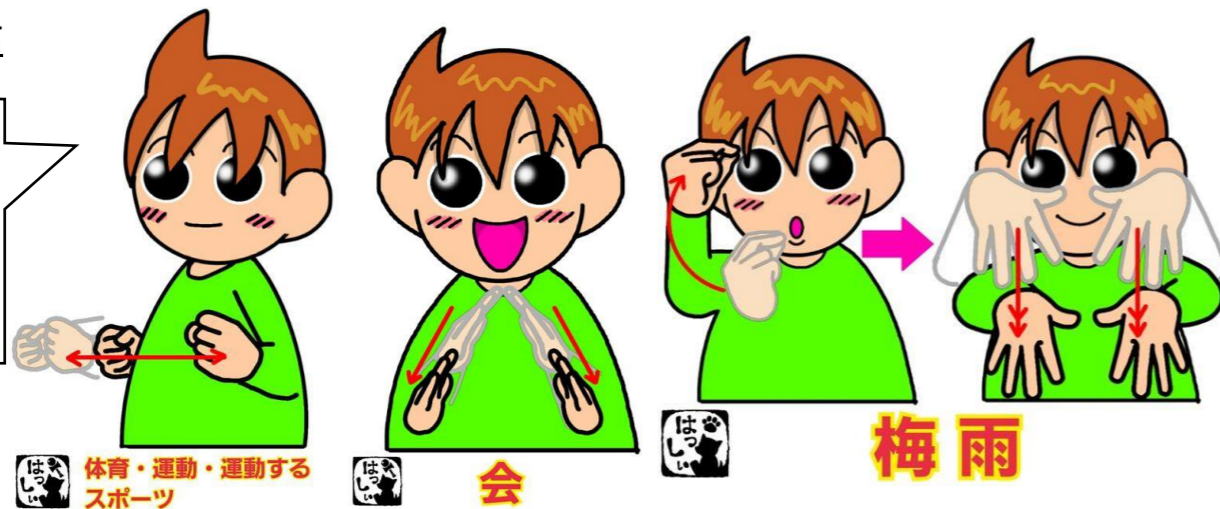


画像引用先「手話エンターテインメント発信団oioi(オイオイ)」

感染防止のために「マスク着用」「パネル設置」が定着化してきましたが、左の絵を見ると聴覚障害者にとっては、困ることだらけです。どうすればいいの？色々な方法がありますが、例として相手の音声テキスト化してくれるアプリ「UDトーク」を使ってコミュニケーションをとる方法があります。「自分だったらどうする？」これからの社会、様々なツールを知り活用することが大事になってくると思います。

今月の手話

今回紹介する手話は「運動」「会」「梅雨」です。



「手話を使うと若々しくなれる！？」

中学部職員 大島 智美

初めましての方は初めまして！今年の三月から長岡聾学校でみなさんと一緒に頑張ることになりました大島です。せっかくなので、少しでも私のことを紹介させてください。新潟市出身の女の子(?)です。生まれつきの重度聴覚障害(手帳は2級)があります。ドライブとゲームが大好きです。私と話すときは口元を見せてください。よろしくお願いいたします。

私は、新潟聾学校の幼稚部を修了したあとは、ほとんど聴者の中で、口話ときどき筆談で生活していました。まったくと言って良いほど手話を使っていません。そのため手話を一日中使って生活したのは、長岡聾学校に来てからが初めてです。

みなさんと手話を使って会話をするようになってから、私はあることに気づきました。ろうの先生方をはじめとした手話を使う先生方みなさん、そして子供たち。どの方もどの子もみなさん生き生きとしていて、そして若々しいことに。

二年前に、新潟メディアシップで開催された初心者向けの手話講座に参加したことがあります。その時の講師から、「手話は、手をただ動かすだけではなく、表情と、はっきりと動かし口元を合わせてやっと表現出来る言語文化の一つなのだ」と教えられました。

「悲しい」などネガティブな内容を手話で表現するときは、しょんぼりとした表情を出します。「楽しい」「うれしい」などポジティブな内容を手話で表現するときは、表情はニコニコとさせます。

手話を使えば使うほど、表情はコロコロと変わり、そして口元も大きく動かして相手に自分の言いたいことを伝えようとします。この動作によって、積極的に表情筋を動かすことが出来ているのではないのでしょうか。表情筋が鍛えられることで血行が良くなり、肌がきれいになり、若々しい顔立ちになることが出来るのではないかと私は気づいたのです。

それからは、手話を使って表情筋を動かすことで、ぴちぴちの20歳のころに若返るかしらと期待をこめて、毎日手話を使うときは表情筋をいつも以上に動かしています。

みなさんもぜひ、手話を使う際にはいつもより大きめに表情や口元を動かしてみたいかがでしょうか。



手話をする時は表情を豊かに☆